

## 第三節 年度別事業の概要

### 一 平成七年度事業

#### (一) 事業工区

第一工区（三郡境の塚から大内ダム）

#### (二) 整備内容

本区間の史跡として代表されるものは何といっても峠の茶屋であることから、根曲り竹が密集した峠頂上平場に5m×10mのトレンチを設定し試掘調査を実施した。

調査の結果、設定されたトレンチからは一定幅で石が置かれていたのが確認され、陶器片及び古銭等が出土し、本場所に茶屋が営まれていたことを確認した。

#### (三) 工事概要

次年度の整備工事の発注にあたり大内ダムから大内峠一里塚間について測量業務を委託する。

### 二 平成八年度事業

#### (一) 事業工区

第一工区（三郡境の塚から大内ダム）

第三工区（大内宿南一里塚から沼山集落）

#### (二) 整備内容

前年度確認した峠の茶屋の本格調査(六二〇m)を実施し、茶屋遺構を明らかとした。茶屋のあった場所には、当初より休憩施設的な四阿を考えていたが、発掘された遺構に忠実に建物を復元してはとのことから検討する事となる。

道路面の整備については、三郡境の塚から大内ダム間を直営により整備した。一里塚より南側は敷化した部分が作業員

を苦しめ、また、石畳の期待があったが、残念ながら整備された石組みとは言えなかった。

第三工区は道筋が何本も存在し、試掘を入れたが確定はできなかった。

整備工事については、大内ダムから大内峠一里塚間において、三本の横断溝設置とともに不陸整正を施し、工事用道路と平行的な段差のあった旧道については、現道から自然的に登るように摺り付け、合わせて落下防護柵を設置し、この間の整備は終えた。また、一里塚にも保護柵を回した。

測量業務は一里塚から三郡境の塚間について委託した。

### 三 平成九年度事業

#### (一) 事業工区

第一工区（三郡境の塚から大内ダム）

第三工区（大内宿南一里塚から沼山集落）

第四工区（沼山集落から中倉集落）

#### (二) 整備内容

第三工区において何本もある道筋の一本から石畳が現れる。石畳を露出し、敷化した道を切り開き第四へと進む。

整備工事は、第一工区の大内峠一里塚から三郡境の塚間において、塚の保護柵、落下防止柵、水処理のための横断溝、石積みや丸太杭による崩落土留工、茶屋敷地と旧道の境に石積みを実施した。また、茶屋前から分かれる谷側の道も活かすこととして不陸整正を行った。

測量委託については、大内ダムサイトから長野の渡しまでを航測により道筋を明らかとした。なお、測量図化は予算の関係から三ヶ年計画とし、本年度は南一里塚までとした。